

令和4(2022)年度 第2回 学校評議員会の概要

1 日 時

令和5年3月2日(木) 13:30~15:00 評議

2 場 所

県立芦屋国際中等教育学校 応接室

3 出席者

別紙参照

4 概 要

次の3点について、それぞれ学校から説明の後、評議していただきました。話題ごとに概要をまとめます。

- (1) 卒業生(15期生)の状況
- (2) 令和5年度入学者選考
- (3) 学校評価

○進路指導

評議員 国籍により外国の大学への進路対応ができなかったとの説明があったがどうか。

学 校 国籍が原因で進学できなかったという意味ではない。一般の生徒で、海外進学の情報が入りにくいなど、情報収集に苦勞していた。学校としてもできる限りのサポートをしたつもりではあるが、進学先の国ごとにシステムが大きく異なり、十分な進路情報を提供できなかった面も否めない。

○日本語教育

評議員 R5入学者のうち、日本語教育が必要な生徒の母語の状況はどうか。

学 校 多くの生徒は母語を身に付けている。ごく少数ではあるが、日本語、母語共に運用が難しい生徒がいる。入学後は、通訳だけではなく、日本語教育や母語、母文化育成も含めて支援していきたい。

○学校評価

評議員 「国際理解を深める教育」の項目に「わからない」が多いが、AIタイムは多文化共生を目指すこの学校の中心となる授業である。これら本校独自の取り組みを本来の目的、目標に立ち返って、それを踏まえて充実させてほしい。例えば、後期課程も含めて中高一貫6年間で教育をするという学校の特性を踏まえたAIタイムの展開はできないか。

学 校 「国際理解を深める教育」の項目に限らず、自己評価、自己点検で「わからない」が多いのは学校全体として様々な取組を共有できていないからだと分析している。前期課程で行っているAIタイムやアートマイルの活動を、その成果と課題も含めて、担当している教員だけでなく、学校全体で共有を図れるよう改善したい。また、各活動が6年間を見通してどうあるべきか、今後引き続き検討する。

評議員 多文化共生や母語、母文化の保障等、今でこそ一般的に広く取り組まれているが、本校では20年前から取り組んでいる。情報セキュリティのこともあるが、学校のホームページだけではなく、同窓会やPTAのホームページ等も活用して広く情報を発信して、本校の生徒や、先生方はこんな素晴らしいことをやっているんだと知ってもらいたい。

○学校生活に関するアンケート

評議員 アンケートの項目に、学校行事や課外活動だけではなく、生徒会活動等の特別活動、AIタイムや習熟度別授業等の特徴ある本校の取組、本校の設置目的や教育目標の実現につながる項目を入れてはどうか。育成したい生徒像について、前向きな議論に繋がるのでは。

学 校 項目については、過年度比較をするために例年同じ項目で実施している。今年も項目についての見直し作業は行っていない。「異なる国籍・言語・文化背景を持った友だちと学ばせて良かった。(学んでよかった。)」という本校の設置目的に沿ったアンケート項目では、ほとんどの保護者、生徒が「良かった」と答えている。アンケートの方向性としては、これでよいと考えているが、いただいたご意見を踏まえて、本校の特色のある教育課程について、もう少し細かい項目建ても検討したい。

評議員 アンケートの結果、子どもたちも保護者も、学校に対する満足度が非常に高い。先生方の日々の取り組みがああ温かい雰囲気卒業式に繋がっていると思う。先生方のご尽力にいつも感謝している。

評議員 日本語の不自由な子どもたちが入学してくるが、やはりその国の言葉も、日本語も、サポートしてあげてほしい。私たちも卒業生の保護者として何かしら力添えができればと思う。そんな子どもたちが、有意義な学校生活を送れるよう応援したい。

評議員 「異なる国籍・言語・文化背景を持った友だちと学ばせて良かった。

(学んでよかった。)」の項目で、ほぼ100パーセントの生徒、保護者が肯定的な回答をしている。多文化共生がしっかりと身につけているように思う。また、学校生活の満足度に関する項目を見ても、否定的な意見が0パーセントというのは、本当に芦国の良さ、素晴らしさが反映されていると思う。

評議員 教員と生徒、保護者、それぞれの思いが感じられるアンケートだった。教員が少ししんどくなっているように思われるので、職務の最適化を考える時期ではないか。

生徒の意見の中で、授業中の私語が多いという意見が気になる。私語が多いというのは、授業コントロールができていない等、何らかの予兆と考えられる。否定的な意見を踏まえた、現状確認も必要だと考える。授業についての生徒の意見や保護者のご意見も踏まえて、6年間一貫の教育の良さが発揮出来ると良い。

また、本校の授業や課題の内容と意味を本人がしっかりと考え、捉えられるよう、伝える方法を考える必要もあるのではないかと思う。教員、生徒、保護者のアンケート、それぞれと辻褃が合っていくような方向性を探って欲しい。他にないものを持っている学校なので、社会にとって大きな力になる学校だと思っている。